「奥様、ご主人は奇 跡です、信じてくだ さい」

約3年前、突然、なぜかわか らないま、生込まの間も と死れまにを を表しいものでした。 を見たのした。 を見たのした。 でロックがは にでいるがは にでいるがは にでいるがは にいますがいる。 にいばれるがは にいばれるが にいがれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいが にいばれるが にいが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいばれるが にいが にいがはないが にいがないが にいがはないが にいがはないが にいがはないが にいがはないが にいがはないが にいがないが にいが 2015年8月9日の日曜日で、私たちは静かに昼食をしていたレオンから、兄を住んでいるアグアスカリエンのでした。で、不連れて行く予定でした。の3人で、兄出発して私の3人で、カンからラゴス・デモレーンでは、私は高速レーンでは、私たちが通過していました。の間に設けられた小さな隙間が出てきました。

馬は運転席側のバンの側面にぶつかり、フロントガラスの支柱が馬の首に当たったので、馬は頭を蹴ってコントガラスを割り、私の頭にしたコントガラスを割り、私の頭にしたの当蓋骨の半分を粉々にした。助かったのは、これが直接の出来事だったことと、私の兄がコ・ドライバーとして前に乗のていたので、なんとかバンを道のにして、止めることが出来ました。

救急車でラゴス・デ・モレノにある 最寄りの診療所に運ばれ、そこで

「右頭頂部虚脱、脳浮腫、重度の頭蓋脳外傷、くも膜下出血フィッシャー4度、閉鎖胸部外傷」と診断され、すべてのバイタルサインが最低レベルだったため、11時間にわたって安定化を図ってくれた。私は死にそうだった。

その間に事故は報告され、家族や友人の間に広まり、初日からいくつかの祈りの連鎖がWhatsAppグループを通じて形成され、彼らは深い信仰をもって、福者アルバロ・デル・ポルティージョの執り成しによって、私の完全な回復を毎日同じ時間に、さまざまな都市や国々で求めた。

緊急手術が必要だったため、私は別の救急車でレオンの病院に移された。レオンの病院に到着すると、彼らは途中で大きな危機があり、私を蘇生させなければならなかったとコ

メントし、最悪の予後を明らかにした。

手術に8時間、昏睡状態で1週間、集中治療室で2週間。

レオンの病院に着くと、私はすぐに 手術室に収容され、そこで減圧開頭 手術を受けた (...) 。手術が8時間続 く間、出入りする医師たちは、私が 生きて帰れないことに賭けていた。 そして祈りの連鎖はさらに激しく続 いた。手術後、私は1週間昏睡状態 に置かれ、2週間は集中治療室で経 過を観察された。手術をしてくれた 神経外科医は、もし目が覚めたとし ても、足や腕の運動障害、何も覚え ていない、誰のことも覚えていな い、話すことも書くこともできない など、多くの後遺症が残るだろうと 予測していた。

集中治療室にいる間、私は病者の塗油を受けていた。多くの家族や友人がやってきて待合室を埋め尽くし、

祈りの鎖は力強く続いていた。6日後、私は何事もなかったかのように昏睡状態から目覚め、完全に動けるようになり、家族全員のことを思い出し、お腹が空いていた。集中治療室から出た私は、2015年8月27日に再び目の手術を受けなければならなかった。そして祈りの鎖はまだ続いていた。

「奥様、ご主人は奇跡です、信じて ください」

事故から1カ月後、私は病院を出て 自宅で回復を続けましたが、脳と硬膜(脳の保護膜)の回復に時間をかければならないため、過度車車のかって、その1年間は自転車用のヘルメットで保護し、抗痙攣薬を持参しなければならず、仕事も対しなければならず、仕事も対しないではあることができませんでした。そして、祈りの鎖はまだ続いていた。 私が最初に治療を受けたラゴス・デ・モレノのクリニックの副院長は、1ヵ月後、私の妻に経過観察の連絡を入れ、私が退院したこと、後遺症が順調であること、後遺症がいこと、完璧に歩いたり話したりに、こうを聞いて、こう言っにしていることを聞いて、こう言っにしていることを聞いて、こう言っにして、ご主人は奇跡です、ご主人は生死の境をさよったのです」。

福者アルバロ・デル・ポルティー ジョの執り成しによる祈りの連鎖

そして1年後、2016年8月2日に再手 術を受けることになり、エポキシ樹 脂を塗ったチタンメッシュを

(……) 被せられました。そして祈りの連鎖は激しく続いた。手術はすべて完璧に進み、3日後にはまた退院して自宅で回復を続けました。病院には引き続き通いましたが、検診と医師のフォローアップのためだけでした。

この間、感情的な浮き沈みがあったことは認めますが、結成された素晴らしい祈りのチームによって、私はいつか完全に勝利を受け入れることができると完全に確信していました。そして、ついに2018年9月8日、私は確定退院を言い渡され、仕事も勉強も、通常の活動に戻る許可が与えられました。

メキシコ、J.C.B.C.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ Okusama-go-Shujin-wa-Kiseki/ (2025/11/24)